

## 幸せなたまご

弘前市立城西小学校

小林 摩 幸

私は、読書感想文を書くために弘前市立図書館へ本を探しに行きました。『いつか空の下で』という、まるでテレビドラマみたいな題名で、表紙には目が真ん丸でかわいいニワトリと、そのニワトリをなでるように持っている女の子の幸せそうな表紙にひかれて借りてきました。本を読んであとからわかったけど、その表紙の絵はこの本の最後の場面を表していました。表紙は幸せそうだったのに、本の内容は全然違いました。

主人公あすかが暮らしている町の養鶏場<sup>けいじょう</sup>では、安いたまごを生産するために、ニワトリをせまいケージに入れて環境<sup>かんげい</sup>が悪<sup>わる</sup>いところで育て、たまごが産めなくなったらニワトリを処分<sup>ぶんぱん</sup>していました。

それを知ったあすかは、みんなに養鶏場のことを知ってほしくて新聞を書くために図書館で家畜<sup>ちかぶ</sup>やたまごについて書かれている本を読んで、アニマルウェルフェアのことを知りました。私もアニマルウェルフェアのことを調べました。アニ

マルウェルフェアとは、日本語で言うと動物福祉<sup>しき</sup>です。生まれてから死ぬまでの間、ストレスをできる限り少なく、自由に動けて、けがや病気にならないで暮らせる飼いかたを指す畜産のしかたです。ニワトリが自由に動けたり、病気にならないで暮らせるから、ニワトリにとっていいことだと思えます。また、たまごを食べる私にとつて、ニワトリの環境<sup>かんげい</sup>が悪いほうのたまごは、汚<sup>きたな</sup>いところで飼われているとたまごまで汚くなりそうだけど、ニワトリの環境<sup>かんげい</sup>がいいほうのたまごは、おいしそうだし、元気だから食べると自分も元気になれるそうだと思います。

あすかが新聞にたまごの値段を高くしてニワトリの環境<sup>かんげい</sup>を良くしようと書いていたので、私はニワトリの環境<sup>かんげい</sup>がいいところで産んだたまごはないか調べたら、平飼いたまごというのがでてきました。平飼いたまごとは、地面に放して飼ったニワトリが産んだたまごです。平飼いたまごが近くのお店でも売っていることがわかりました。値段を見たら高いなあ

思ったけど、ニワトリが自由に動いているから値段が高いことがわかりました。

『いつか空の下で』は、ニワトリが空の下で自由に過ごしてたまごを産んでほしいなあという願いがこめられていると思います。この本は、アニマルウェルフェアのことについて

書かれています。私はこの本を読むまでアニマルウェルフェアのことを知らなかったから、みんなにも知ってほしいと思いました。動物も人間も、両方が元気に過ごせるようになるといいなあと思います。